

エコアクション21 環境活動レポート	発行日	発行部門	改訂番号
	2024/6/15	環境事務局	1

菱栄工機株式会社 環境経営レポート 2023

対象期間 2023 年 3 月～2024 年 2 月

適用規格：エコアクション21
建築業者向けガイドライン 2017 年版

エコアクション21 環境マネジメントシステム



承認 代表者（社長）	作成 環境管理責任者

エコアクション21 環境活動レポート	発行日	発行部門	改訂番号
	2024/6/15	環境事務局	1

改訂履歴

制定・変更・改訂履歴				
No.	年月日	該当章又はページ、内容、理由	承認	作成
1	2024/6/15	初回作成		
2				
3				

目次

1 会社概要.....4

2 認証・登録の対象組織・活動.....4

3 環境経営方針.....5

4 環境経営目標.....6

5 環境経営計画と取組内容.....7

6 環境経営計画の取組実施体制と役割権限.....8

6.1 実施体制図.....8

6.2 役割権限表.....8

7 環境経営目標及び環境経営計画の結果と評価.....9

7.1 環境経営目標の結果と評価.....9

7.2 環境経営計画 2023 年度活動結果と評価.....10

7.3 2024 年度の環境経営計画.....11

8 環境関連法規等の遵守状況及び違反、訴訟の有無.....12

9 代表者による全体評価と見直し結果.....13

エコアクション21 環境活動レポート	発行日	発行部門	改訂番号
	2024/6/15	環境事務局	1

1 会社概要

- 会社名 菱栄工機株式会社
- 代表者 代表取締役社長 櫻庭 正樹
- 所在地 本社・工場：愛知県豊田市衣ヶ原3丁目31番地
九州営業所：福岡県京都郡苅田町鳥越町1丁目2番地（認証対象外）
北陸営業所：石川県小松市八幡甲138-4
※ 北陸営業所は、2019年2月に設立

■ 環境管理関係の連絡先

環境管理責任者	専務取締役	伊藤 豊
環境管理事務局	経営管理室	加藤 正剛
連絡先	Tel	: 0565-33-1712
	Fax	: 0565-33-1881

- 設立 1953年（昭和28年）
- 資本金 7,700万円
- 売上高 23億83百万円（令和5年：2024.2月期 実績）
- 従業員数 101名（2023.2月29日時点）
- 事業内容 各種クレーンなど工業生産向け重量物搬送機械の設計・製造、点検・保守及び、各種製缶物の製造
- 事業年度 3月～2月

2 認証・登録の対象組織・活動

- 登録組織 菱栄工機株式会社 本社、本社工場、北陸営業所
- 対象活動範囲 各種クレーンなど工業生産向け重量物搬送機械の設計・製造、点検・保守及び、各種製缶物の製造

エコアクション21 環境活動レポート	発行日	発行部門	改訂番号
	2024/6/15	環境事務局	1

3 環境経営方針

環境経営方針

※ エコアクション21 建設業者向けガイドライン 2017年版 による

<< 環境経営宣言 >>

菱栄工機は、環境経営システムを構築し、積極的な環境への取組みをおこないます。

<< 環境経営方針 >>

1. 当社は、クレーンの製造・設置、点検・メンテナンス事業において、お客様に安全と安心を提供するために、環境に配慮した方法で事業活動を展開します。
2. 当社が中長期的に直面する内部的・外部的な課題について、環境を配慮した対策を環境経営実現のチャンスと捉え積極的に実施します。
3. 当社が行なう全ての事業活動において下記に示す環境への取組みを実施します。
 - ① エネルギーや資源の消費を削減する努力をします。
 - ② 廃棄物の削減や廃棄物の分別再利用を心掛けます。
 - ③ 有害物質や汚水の流出をしません。
4. 当社は、継続的改善を通して環境経営を永続的にステップアップしていきます。
5. 当社は、事業に適用される環境に関する法規制などの主旨を尊重し遵守します。

制定：2019年 07月 01日

確認：2023年 06月 02日

菱栄工機株式会社

代表取締役社長 櫻庭 正樹

4 環境経営目標

環境経営目標設定書

様式 6-01 見直：2023. 07/07

承認	作成
	
環境管理責任者	環境事務局

項目	場所	目標項目	単位	基準年度	年度目標			
				2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
二酸化炭素排出量	全社	二酸化炭素排出量の削減 (電気、ガソリン軽油、灯油)	kg-CO ₂	290,529	287,624	284,718	281,813	
				100%	99%	98%	97%	
		電力使用の削減	kWh	360,969	357,359	353,750	350,140	
				100%	99%	98%	97%	
		*2 中部電力 排出係数 北陸電力 排出係数	kg/kWh	0.388 0.484	(0.388) (0.484)	(0.388) (0.484)	(0.388) (0.484)	
		ガソリン使用量の削減 (排出係数:2.32 kg/リットル)	リットル	29,525	29,230	28,935	28,639	
				100%	99%	98%	97%	
		軽油使用量の削減 (排出係数:2.58 kg/リットル)	リットル	29,223	28,931	28,639	28,346	
				100%	99%	98%	97%	
		灯油使用量の削減 (排出係数:2.49 kg/リットル)	リットル	2,416	2,392	2,368	2,344	
				100%	99%	98%	97%	
		液化石油ガス(LPG)の削減 (排出係数:3.00 kg/リットル)	リットル	94	93	92	91	
				100%	99%	98%	97%	
排出廃棄物	全社	一般廃棄物の削減	t	6.65	6.58	6.52	6.45	
				100%	99%	98%	97%	
	全社	産業廃棄物の削減(*1)	t	9.84	9.74	9.64	9.54	
				100%	99%	98%	97%	
総排水量	全社	水道水使用の削減	m ³	848	840	831	823	
				100%	99%	98%	97%	
		工業用水使用の削減	m ³	278	275	272	270	
				100%	99%	98%	97%	
配環境	全社	環境配慮設計・製造・サービス 取り組み件数	件	1件	2件	2件	2件	
貢地域	隣接 道路	工場周辺清掃	回	4回	4回	4回	4回	
物化学	全社	PRTR物質の在庫 トルエン、キシレン、エチルベンゼン、 トリメチルベンゼンなどの計	kg	*4 265.0	262.3	259.7	259.7	
				100%	100%	99%	99%	

*1: 産業廃棄物の量は、「木くず」「廃プラ」「紙くず」「金属くず」の合計＝「混載ごみ」を管理する。
*2: 電力二酸化炭素の排出量係数は、2021年度値を目標の基準とするが、達成状況の確認では、
年度毎に公表される電力会社の最新値を用いる。(カーボンニュートラル目標の指標とする為)
*3: 北陸営業所の結果は、2019年度以降の実績より反映。
*4: 化学物質は2022末に管理の見直しを行った為、基準年度は2022年となる。
※代表者による確認を、毎年実施し、目標値を見直す。

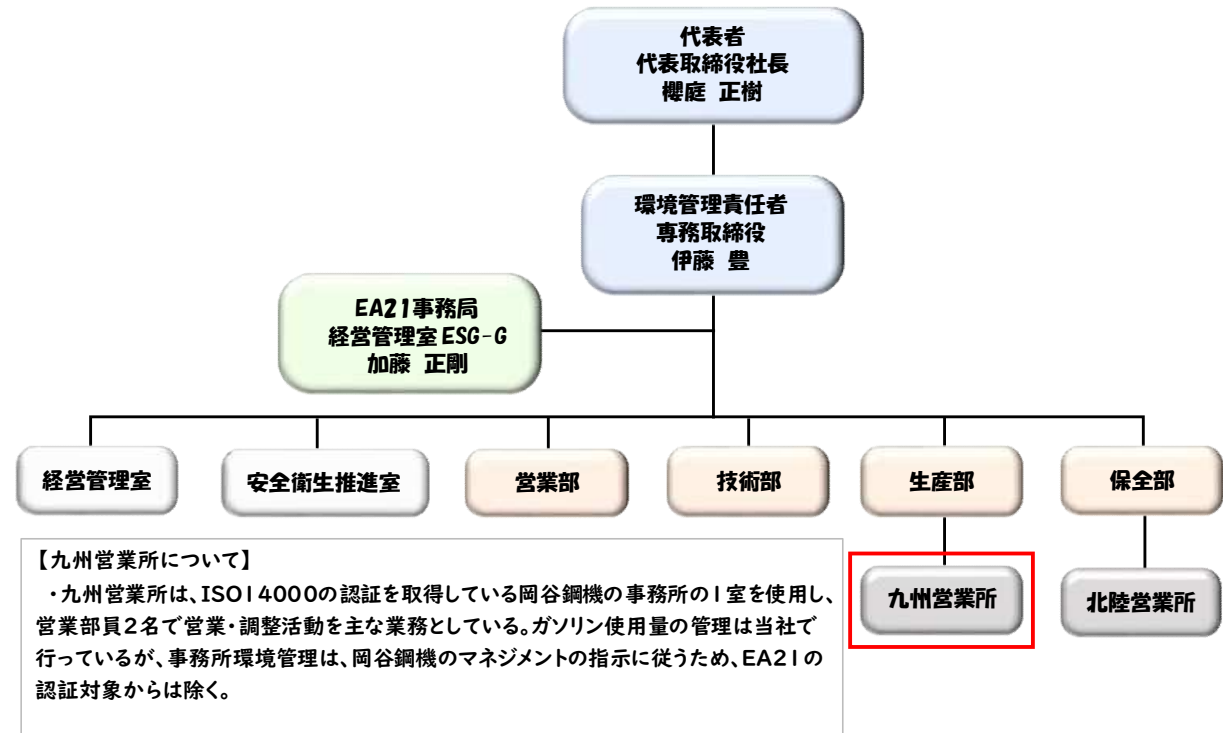
エコアクション21 環境活動レポート	発行日	発行部門	改訂番号
	2024/6/15	環境事務局	1

5 環境経営計画と取組内容

				承認	作成		
							
				環境管理責任者	環境事務局		
菱栄工機株式会社	環境経営計画書 対象年度：2023年度 (2023. 3/1～2024. 2/28)			様式 6-02			
手順書				環境事務局			
制定：2023年05月16日				1 / 1			
取組み計画	活動対象	活動期間	取組み方法				
1. 二酸化炭素排出量の削減							
・電力使用量の削減	全社	年間	・本社・本社工場の使用電力系統別見える化 ・「空調機」更新の検討 ・照明のLED化(既に95%は、完了) ・太陽光発電導入の計画				
・ガソリン使用量の低減	各部署	年間	・出張機会の低減、エコドライブ ・BEV車両の導入計画				
・軽油使用量の低減	各部署	年間	・出張機会の低減、エコドライブ ・油圧作動動作、発電機使用も含めて省エネ意識の向上				
・灯油使用量の低減	生産部	年間	詰所の整備による現場暖房の削減				
・LPGガス使用量の低減	生産部	年間	給湯節約の啓蒙				
2. 廃棄物排出量の削減 及び 廃棄物の管理							
・一般廃棄物低減	環境事務局	年間	ゴミ箱削減の検討				
・産業廃棄物低減	環境事務局	年間	工事前に客先と環境にやさしい廃棄物処理を「現場工事による廃棄物処理方法選択」に従って計画する。				
3. 総排水量の削減							
・上水使用量	環境事務局	年間	節水呼びかけ				
・地下水使用量	生産部	年間	節水啓蒙(洗車時の水の使用)				
4. 環境配慮							
・省資源設計の検討	技術部	年間	クレーンスイッチング操作の低減につながる「玉掛君エース」の拡販→協豊会展示会で提案。安全性のメリットもあり、導入する顧客が増加している。				
5. 地域貢献							
・工場周辺の清掃	全員	年間	工場周辺道路の清掃 隣地工場との境界清掃				
6. 化学物質使用量の削減							
・化学物質の在庫管理と削減	生産部	年間	新塗装庫の運用ルール作成 化学物質在庫の低減				

6 環境経営計画の取組実施体制と役割権限

6.1 実施体制図



6.2 役割権限表

	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境管理責任者を任命 ・EA21を運用し、維持する為の経営資源を用意する ・効果的で必要十分な実施体制を構築する ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ・環境経営目標・環境経営活動計画書及び環境経営活動レポートの承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	・環境経営システムの構築・実施・管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営活動計画書及び環境経営活動レポートの作成 ・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告
EA21事務局	・環境負荷の自己チェック及び環境への取組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標・環境経営活動計画原案の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成、環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営活動レポートの公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） ・従業員に対しての環境方針の周知 ・環境経営活動計画の実施及び達成状況の管理 ・手順書作成及び運用管理 ・緊急事態対応の為の手順作成、試行、訓練の実施と記録 ・問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	・環境経営方針の理解と環境経営への取組みの重要性を認識する ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加する

7 環境経営目標及び環境経営計画の結果と評価

7.1 環境経営目標の結果と評価

環境経営目標達成状況										【達成状況】						承認		作成							
										◎：よくできた △：あまりできなかった						○：まあまあできた ×：できなかった						環境管理責任者		環境事務局	
様式 13-01										作成日：2024. 7.7															
項目	場所	目標項目	単位	基準年度	年度目標																				
				2021年度	2022年度			2023年度			2024年度														
					目標	実績	評価	目標	実績	評価	目標	実績	評価												
二酸化炭素排出量	全社	二酸化炭素排出量の削減 (電気、ガソリン軽油、灯油)	kg-CO ₂	296,930	293,960	276,492	○	290,991	274,855	○	288,022	0													
				100%	99%	93%		98%	93%		97%	0%													
		電力使用の削減	kWh	360,969	357,359	331,800	○	353,750	326,512	○	350,140	0													
				100%	99%	92%		98%	90%		97%	0%													
		電力会社別消費電力	中部電力	kWh	358,030		328,992			323,791			0												
			北陸電力	kWh	2,939		2,808			2,721			0												
		調整後 排出係数*2	中部電力	kg/kWh	0.406		0.406			0.406			0.406												
			北陸電力	kg/kWh	0.469		0.469			0.469			0.469												
		ガソリン使用量の削減 (排出係数:2.32 kg/ℓ)	ℓ	29,525	29,230	26,883	○	28,935	28,854	○	28,639	0													
				100%	99%	91%		98%	98%		97%	0%													
		事業所別ガソリン使用量	本社	ℓ	25356		23803			25779															
			九州	ℓ	2332		2345			2166															
			北陸	ℓ	1837		735			909															
		軽油使用量の削減 (排出係数:2.58 kg/ℓ)	ℓ	29,223	28,931	28,264	○	28,639	29,350	△	28,346	0													
				100%	99%	97%		98%	100%		97%	0%													
		事業所別軽油使用量	本社	ℓ	26063		24864			26118															
			九州	ℓ	0		0			0															
			北陸	ℓ	3160		3400			3231															
		灯油使用量の削減 (排出係数:2.49 kg/ℓ)	ℓ	2,416	2,392	2,420	×	2,368	2,000	○	2,344														
				100%	99%	100%		98%	83%		97%	0%													
		液化石油ガス(LPG)の削減 (排出係数:3.00 kg/ℓ)	kg	94	93	96	×	92	87	○	91														
				100%	99%	103%		98%	92%		97%	0%													
排出廃棄物	全社	一般廃棄物の削減	t	6.65	6.58	5.67	○	6.52	4.69	○	6.45														
				100%	99%	85%		98%	71%		97%	0%													
	全社	産業廃棄物の削減(*1)	t	9.84	9.74	10.42	×	9.64	9.36	○	9.54														
				100%	99%	106%		98%	95%		97%	0%													
総排水量	全社	水道水使用の削減	m ³	848	840	876	×	831	855	△	823	848													
				100%	99%	103%		98%	101%		97%	100%													
		工業用水使用の削減	m ³	278	275	271	○	272	150	◎	270														
				100%	99%	97%		98%	54%		97%	0%													
配環境	全社	環境配慮設計・製造・サービス取組み件数	件	1件	2件	1件	△	2件	1件	△	2件														
貢地域	隣接道路	工場周辺清掃	回	4回	4回	4回	○	4回	4回	○	4回														
物化学	全社	*3 PRTR物質の在庫 トルエン、キシレン、エチルベンゼン、トリメチルベンゼンの計	kg	265.0	262.3	302.6	-	259.7	265.0	-	259.7														
				100%	99%	114%		98%	100%		98%	0%													

*1: 産業廃棄物の量は、「木くず」「廃プラ」「紙くず」「金属くず」の合計を「総排出量」とした。
*2: 電力-二酸化炭素の換算係数は、環境省が公表する年度毎の調整後排出係数を用いる。本票は基準年度(2021)の値を採用する。
*3: 2022末に 保全使用物も含めて管理品の抽出を行った事と、SDSの再整備をしたので、基準年度を2022年とした。

7.2 環境経営計画 2023 年度活動結果と評価

		承認		作成		
						
		環境管理責任者		環境事務局		
【環境経営項目達成評価】						
◎:よくできた ○:まあまあできた △:あまりできなかった ×:できなかった						
菱栄工機株式会社		環境経営計画実施状況 基準年度：2021年度 (2023. 3/1～2024. 2/29)		様式 13-02		
手順書				環境事務局		
制定：2024年06月02日				1 / 1		
取組み計画		環境経営 目標達成	取組効果及び評価		環境活動 取組改善	改善内容 など
1. 二酸化炭素排出量の削減		◆ 数値は基準年度2021に対する比率				
・二酸化炭素排出総量		○ 93%	・当社のCO2排出量は「電力:48%」「ガソリン:23%」「軽油:27%」の3要素で97.7%を占める。 ・よって、環境経営計画は、上記3要素が中心。 ・2023は、ガソリン・軽油が増加したが全体では前年より下がった。(電力消費が減少)		継続	・コロナ禍の影響がなくなり、「ガソリン」「軽油」の使用量が基準レベル年度まで復活している。 ・「ガソリン」「軽油」の消費は事業活動に連動する為コントロールが難しい。 ・その分、電力の削減を優先する必要がある。
・電力使用量の削減		○ 90%	・2023年度は、本社工場の外灯をLED化した。 ・継続して節電活動は続けているが、多くは設備の置き換えで電力消費が削減できる。 ・2030の目標に向けて、太陽光発電や電気自動車の動向を注視している		継続	・2022年より、電源系統ごとにセサを設け、電力使用量の年間詳細を明らかにする事を実施している。 ・現場の溶接で使用する電力よりも、空調をメインとする本社事務棟の電力消費が大きいと分かった。
・ガソリン・軽油使用量の低減		ガソリン ○ 98%	・ガソリンの殆どは、本社営業車である。 ・2023年度は、事業自体が活況であったこともあるが、コロナ禍が下火となり、移動の規制が緩くなったことからガソリンの消費が伸びた。(営業車:走行距離14%up)		継続	・リモートを活用したお客様とのコミュニケーションを継続する。 ・エコ運転を継続する。 ・そろそろBEV車導入の検討を始める次期である。
		軽油 △ 100%	・軽油の消費は、業務用社の移動と作業油圧による消費である。 ・2023年度は、事業自体が活況であったことで作業車(高所作業車・トラック)使用の頻度が高かった。 (高所作業車・トラック:走行距離+作動18%up)		継続	・省エネ意識を高める事を継続する。 →「アイドルストップ」「エコドライブ」
・灯油使用量の低減		○ 83%	・用途は、冬期の暖房用燃料である。 ・気候による使用量差であると思う。		継続	・換気優先、作業環境優先の中で、省エネ意識を高める事を継続。
・LPGガス使用量の低減		○ 92%	・用途は、給湯器の燃料。 ・2020年に給湯器を更新して、使用量は減少した。		継続	・省エネ意識を高める事を継続する。
2. 廃棄物排出量の削減 及び 廃棄物の管理						
・一般廃棄物低減		○ 71%	・ゴミ袋の数を集計している。ゴミ削減の啓蒙を実施。		継続	・ゴミ削減の啓蒙を継続。
・産業廃棄物低減		○ 95%	・産業廃棄物は、お客様サイトで発生する。 ・工事の前に廃棄物処理についてお客様と合意する必要がある。 ・集計の仕方について関係者検討の上、時期の中期計画に向けて見直しを行います。		継続 追加	・産業廃棄物について、工事前にお客様と打ち合わせる機会が確実とし、当社で処理する産廃の量を低減する。
3. 水使用量の削減						
・上水使用量		△ 101%	・昨年度より多いが、低減傾向。 ・上水の用途は、トイレと手洗い。		継続	・節水の啓蒙を継続。
・工業用水使用量		◎ 54%	・洗車、工場の手洗い場に使用しており、工場運用に使用しているわけではない。 ・使用量が改善された要因がよくわからないため、継続して管理する。		継続	・節水を呼びかけますが、洗車も大切であるため、無駄な流水を減らす努力を行う。
4. 環境配慮						
・省資源設計の検討		△ 1件	・クレーンのインテグレーション操作の低減につながる「玉掛君エース」の拡販。 →協賛会展示会で提案。 →安全性のメリットもあり導入する顧客が増加している。		継続	・新たなアイテムも考えるが、左記の項目を他のお客様にも展開していきたい。
5. 地域貢献						
・工場周辺の清掃		○ 4回	・工場周辺道路の清掃を実施		継続	
6. 化学物質使用量の削減						
・化学物質の在庫管理と削減		－ 100%	・SDSの内容を精査。 →これまで管理してきたPRTR物質以外の物が含まれている事が分かり、管理物質を追加した。		継続	・塗装協力会社との塗料補完のルール化などにより在庫を減らすことで、PRTR物質の保有量を削減する。

エコアクション21 環境活動レポート	発行日	発行部門	改訂番号
	2024/6/15	環境事務局	1

7.3 2024 年度の環境経営計画

				承認	作成		
							
				環境管理責任者	環境事務局		
菱栄工機株式会社	環境経営計画書 対象年度：2024年度 (2024. 3/1～2025. 2/28)			様式 6-02			
手順書				環境事務局			
制定：2024年05月16日				1 / 1			
取組み計画	活動対象	活動期間	取組み方法				
1. 二酸化炭素排出量の削減							
・電力使用量の削減	全社	年間	・本社・本社工場の使用電力系統別見える化 ・「空調機」更新の検討 ・照明のLED化(既に95%は、完了) ・太陽光発電導入の計画				
・ガソリン使用量の低減	各部署	年間	・出張機会の低減、エコドライブ ・BEV車両の導入計画				
・軽油使用量の低減	各部署	年間	・出張機会の低減、エコドライブ ・油圧作動動作、発電機使用も含めて省エネ意識の向上				
・灯油使用量の低減	生産部	年間	詰所の整備による現場暖房の削減				
・LPGガス使用量の低減	生産部	年間	給湯節約の啓蒙				
2. 廃棄物排出量の削減 及び 廃棄物の管理							
・一般廃棄物低減	環境事務局	年間	ゴミ箱削減の検討				
・産業廃棄物低減	環境事務局	年間	・工事前に客先と環境にやさしい廃棄物処理を「現場工事による廃棄物処理方法選択」に従って計画する。				
3. 総排水量の削減							
・上水使用量	環境事務局	年間	節水呼びかけ				
・地下水使用量	生産部	年間	節水啓蒙(洗車時の水の使用)				
4. 環境配慮							
・省資源設計の検討	技術部	年間	・インバータ回生エネルギーの活用。 →マトリックスコンバーターの提案				
5. 地域貢献							
・工場周辺の清掃	全員	年間	工場周辺道路の清掃 隣地工場との境界清掃				
6. 化学物質使用量の削減							
・化学物質の在庫管理と削減	生産部	年間	新塗装庫の運用ルール作成 化学物質在庫の低減				

8 環境関連法規等の遵守状況及び違反、訴訟の有無

様式 5-04

見直：2023. 10. 04

承認	作成
	
環境管理責任者	環境事務局

法令等の名称		該当する 条項等	適用される要求事項	遵守評価	
				当社の状況	判定
大気	○自動車Nox・PM法	第4条 第17条	□事業者の責務（Nox・PMの排出抑制に努める） □保有車両削減計画の報告	当社は30台以上の業務用車を有しており、報告実施。	○
	○フロン排出抑制法	第6条	□特定製品の整備・廃棄時のフロン回収・破壊 □引取証明書による回収・破壊の工程の確認 □機器の点検の実施（	小規模機器を保有の為、届出は不要。 「簡易点検」を実施。	○
水質	○水質汚濁防止法 排水基準を定める 省令	第2条	□水質基準の遵守 □有害物質（26） □有害物質含有汚水の地下浸透	工場内の手洗い場の排水は今まで、公共用水域に流れる水路であったが、浄化槽に流れるように水路を変更。	○
	○浄化槽法	第5条 第8～10条 第11条	□設置または変更時の届出 □保守点検 □定期検査	浄化槽の設置届出済。 定期保守点検を専門業者に委託。	○
騒音	○騒音規制法	第6条	□特定施設）の届出 送風機、空気圧縮機など 7.5kw以上 （愛知県条例では、冷凍機が加わり値が 3.75kW 以上となっている）	「工業専用地域」である為、法令の対象外であるが、愛知県条例の対象範囲である。但し、当社所有のコンプレッサー及び送風機は、消費電力が 3.75kW未満である。当社敷地境界の官能点検を実施。	○
振動	○振動規制法	第6条	□特定施設）の届出 圧縮機など 7.5kW以上 （愛知県条例では、送風機と冷凍機が加わり 3.75kW 以上となっている）	振動規制も愛知県条例の対象範囲であるが、消費電力は 3.75kW未満。 当社敷地境界の官能点検を実施。	○
廃棄物	○廃棄物処理法	第7条 第14条 第15条 第12条 施行例8条	□一般廃棄物処理業者は市町村長の許可が必要 □産業廃棄物処理業者は市町村長の許可が必要 □保管基準の遵守（表示、衛生管理等） 表示：60cm角以上、種類、事業者名、 管理者名、連絡先 □許可業者に委託（一廃は許可証の確認） □許可業者に委託（産廃は契約） □マニフェスト発行・返送遅延時の届出 □マニフェスト交付状況の報告 □委託業者の現地確認 □専ら再生利用を目的の収集・運搬業者に委託	委託業者の現地確認（年1社以上） マニフェストの適正管理 契約書適正更新 廃棄物の表示	○
	○家電リサイクル法 ・小形家電リサイクル法 ・パソコンリサイクル法	第6条	□長期使用による排出抑制 □廃棄物の法律に基づく適正処理	それぞれの法律で、対象品と処理の方法 が異なるが、適切な業者に廃棄の委託が できている	○
その他	○消防法	第21条の4 第31条の4	□火災報知機の設置（工場500㎡以上） □屋内消火栓の設置（工場700㎡以上） □消防用設備等の点検と報告	工場内の消防用設備については 点検と報告を実施	○
都道府 県等の 条例	県民の生活環境	公害防止	□500㎡以上の駐車場を保有する者は 「アイドリングストップ」の掲示等が必要	「アイドリングストップ」表示	○
	廃棄物の適正処理	廃棄物	□廃棄物の適正な処理 （適切な産業廃棄物業者との契約）	適正な処理 ・マニフェストの発行と回収 など	○

※違反、訴訟等の有無

環境関連法規については、遵守状況を確認した結果、法令違反はありませんでした。

また、外部・近隣住民からの苦情、訴訟、行政指導は過去 3 年ありません。

9 代表者による全体評価と見直し結果

様式：14-01

代表者による
全体の評価と見直し記録

■定期見直し（事業年度終了後）
□臨時見直し

実施日：2024年6月15日

代表者

環境管理責任者

見直しに必要な情報

代表者による見直し

管理責任者の報告及び改善への提案

変更の必要性の有無・指示事項

【取組み状況の評価結果】

【環境経営方針】

変更の必要性：☐有 ☒無

【評価① 活動全体】

・EA21活動を継続し、毎年結果を報告している事から、自然に社員の中で環境意識が身についている様に感じる。
→不要時消灯や節水の現場を見かける機会がある。
・電力消費の低減は着実に実行できており、事業が活発になって、ガソリン・軽油の消費量が上がってもCO2排出量が低減できたのは、良い傾向である。
・CNシナリオの運用努力によるCo2低減は順調である。
→太陽光発電などの再生可能エネルギーの検討は技術開発の途中である為、採用の判断がつかず遅れ気味。

【評価② 法令遵守】

・環境法規の変更に対してはチェックができており、対応は問題ないと考えている。
・但し、化学物質の管理については、PRTR物質の洗い出しの段階であり、十分ではないと感じている。

【評価③ 二酸化炭素排出量】

・カーボンニュートラル目標設定（2030中間目標）
→運用努力は順調に行われている。
→その他の低減アイテムについては開発途上の物が多く、採用判断が遅れている。（但し、常に情報を入手）

【環境経営目標・環境経営活動計画】

変更の必要性：☐有 ☒無

◆2021年度の活動より、明確に「2050カーボンニュートラル達成」をEA21活動の最優先課題とした。

・2023以降も「カーボンニュートラル」を中心に、活動を展開していく。

・「カーボンニュートラル」を最優先課題として、下記の項目について、PDCAを回して目標に向かって改善して行く仕組みを構築し、実践する事。

① 事務所、作業場の4S-5定。（特にお客様サイト）
② エネルギー消費の削減。（特に電力、ガソリン）
③ 廃棄物の削減。（特に埋立廃棄物）
④ 有害物質の拡散。（特に油漏れ）
⑤ 法令順守。（特に作業場におけるルール）
⑥ 行動意識改革。（環境を配慮した事業活動）
⑦ 当社が納める製品について省エネ設計を推進。

【活動評価】

○：よくできた ○：まあまあできた
△：あまりできなかった ×：できなかった

（詳細は環境活動計画書による）

目標項目	目標値達成状況	活動計画実施状況	コメント （目標値の設定や活動計画に対するコメント）
電力の削減	○	○	・外灯のLED化ができた。
ガソリンの削減	○	○	・営業車の客先訪問頻度が増加した。
軽油の削減	△	×	・トラックの走行距離が増加した。
一般廃棄物の削減	○	○	・削減意識が高まった。
産業廃棄物の管理	—	—	・見直しによる精度アップ。
節水（上水）	△	△	・節水の啓蒙を継続。
PRTR物質の在庫	—	—	・SDSの全面見直し。

全体：ガソリン・軽油は業務の量に左右されコントロールできないが、電力消費は事業の状況に関わらず変化が少ないので管理が可能。そういう意味では、年々電力消費が低減している事からEA21の活動が功を奏していると言える。

【改善への提案】

・再生可能エネルギーの検討を2030に向けて継続する事。
・化学物質管理の方法と体制を構築する事。
・「省エネ」「省資源」「環境汚染防止」の意識をさらに高める事。

【外部コミュニケーション】

◆ 2023. 12/29 客先で「燃料漏れ」発見。（当社の作業者が発見）
→お客様、当社連絡網に情報展開し、即座に対処。（報告書提出：客先）

【周囲の変化の状況】

①社会的要求
・世界的な気候変動が顕著になり、CO2削減は数少ない対策として世界に要求されている。
◆ 2050のCN達成は、益々重要な目標となっている。
◆ BEV への転換の勢いは弱くなったが、方向は変わっていない。
②お客様の要求
・トヨタ自動車殿からのサプライチェーンCN活動。（2050 CN達成）
③内部変化
・工事案件増加傾向。（構造的なCO2削減アイテムが必要）

【周囲変化に対する環境活動】

・周囲の状況を総合的に考えると、重点事項は下記となる。
① CO2削減（カーボンニュートラル）
② 化学物質管理＋化学物質リスクアセスメント
③ 廃棄物の削減＋正しい廃棄物処理

代表者が自ら得た情報

・現地確認による本社工場の4S-5定（巡回による確認）
→安全の見える化を基本に着実に進んでいる。
・廃棄物（一般ごみ、産廃）の分別が不十分（巡回による確認）

◆ 菱栄工機は、2030年に向けた CN シナリオを2021年に作成した。全社一丸となって、計画の実現を目指す。